

## 第 1 回管理運営計画分科会 要点録

開催日時・場所	令和元年 6 月 26 日(水) 18:00~20:30 パルテノン多摩シティーサロン	
参加者・傍聴者	参加委員 11 名、傍聴者 0 名	
出席職員	多摩市長、くらしと文化部長、文化施策担当課長、財団職員 2 名、市アドバイザー	
主な内容	開会	前回要点録の確認、その他確認事項について
	次第 1	パルテノン多摩の理念・方針/改修による主な変化について
	次第 2	分科会での主な論点について
	次第 3	事業計画について
	閉会	管理運営計画の完成形の確認、次回について
議題	主な意見	
次第 1	<p>① エレベーターの開館時間外の利用とあるが、改修後はどのような運用方法を想定しているのか。 ⇒(事務局) 開館時間外でも、エレベーター部分だけは入れるように区画を整理する。利用時間については本委員会での論点の 1 つと考える。</p> <p>② 博物館機能のスペースが減ると、ボランティア活動の継続や、人が来てくれるのか不安。 ⇒(事務局) これまでは使い方を固定し、活動が区切られていたが、これからは様々な場所で活動が入り交わるような使い方をしていく。</p>	
次第 2	<p>① 障がい者は、準備や片付けに時間がかかってしまい、健常者と同じ貸出時間ではうまく使いきれない。障がい者と健常者で時間を変えられたらいい。</p> <p>② 9 時から施設を借りると、一般利用者と同時に入館して、急いで準備しなければならない。イベントの開催時間も後ろ倒しにしないといけない。借りている団体は少し早めに入館できる仕組みが必要では。</p> <p>③ 演者やスタッフなど、市民がボランティアとして参画するにも様々な形態がある。どのような関わり方があるかを見える化できる仕組みが必要。</p> <p>④ 市民とプロで利用料金を変えられると良い。</p> <p>⑤ 市内の小中学校等が気軽に借りられるようにしたい。</p> <p>⑥ 一般目的の貸館と、市民活動等の目的の貸館を別扱いにするなど、施設を使う敷居を下げていくことが大切。</p> <p>⑦ 永山公民館の保育室のように、子連れで打ち合わせ等をする使い方ができるといい。</p> <p>⑧ ルールが複雑だと、利用する気にならなくなる。借りる側の視点でできる限りシンプルで、かつ公平だと思えるルールにする方が良い。</p> <p>⑨ 運営者の視点で考えると、柔軟な運営になるほど職員負担が増える。働き方改革の中で、ホールで働く者のことも考えないといけない。</p> <p>⑩ 市民優先か、収益優先か、ある程度の割りきりは必要。</p>	
次第 3	<p>① コンサートと展覧会など、1 つのジャンルにこだわるのではなく他の文化と交えて行う事業を市民主催でできると良い。</p> <p>② 半年に一回でも、大ホールを使った企画を公募して、多くの人をホールに集めるイベントができれば、来る人が広がるのではないか。</p> <p>③ 音楽や演劇自体が好きなのは都心に出て観に行く。「パルテノン多摩が近いから」という理由で観に来る人を呼び込むのが大切。</p> <p>④ 各委員の意見の傾向から、パルテノン多摩の事業の現状として、市民を巻き込んでいくという側面が弱いことが課題と言える。</p>	